

今、農業農村工学講座に所属し、農業土木学という教育・研究に取り組んでいます

三重大学大学院 生物資源学研究科 農業農村工学講座 教授 成岡 市

三重高等農林学校は、日本で最初に「農業土木学科」が設置された高等教育機関(大学等)です。大正 10(1921)年 12 月に設置された三重高等農林学校の翌年 4 月、新設の農業土木学科にて開講された授業科目名をみると(三重大学農学部資料、年表 教務関係、大正 10 年～昭和 47 年)、必修科目「修身、体操、英語、数学、物理学・気象学、植物学・植物生理学、化学、幾何学、鉱物学・地質学、経済学、法学通論、応用力学、応用水理学、測量学、材料・施工法、道路・橋梁、農業水利学、耕地整理論、設計・製図、実験実習、計算演習(計画演習)、農業機械学、原動機・揚水機、作物学、園芸学、植物学・植物病理学、土壌学・肥料学、農業経営学、農政学、農業土木法規」、選択科目(当時は随意科目)「林学大意、行政法大意、植民政策、独逸語」と並び、加えて、教育の特色については「1. 講義式の教授法を排し、自学研究主義の教授法を採ること(注的講義方式授業の排除)、2. 教授の実際化をはかり、これが実現する方法を講ずること(実験実習の重視)」と記録されています(一部現代語に微修正)。

言葉遣いの新旧はありますが、これは一体何を意味しているのでしょうか。当時の農業土木技術者、すなわち当時の制度「耕地整理法」とその事業に自ら進んで携わり公共に対して強い責任感を持ち、正解のない複雑問題に果敢に取り組むことのできる技術者を育成するカリキュラム設計にほかなりません。学生の授業ノートが学内に保管されていますが、英語で書かれたページをめくると、国際的視野の斬新な授業が行われていたことがわかります。

しかしながら、現在、このような教育組織が維持困難で、学生教育や教員補充の発言権も縮小している農業土木系分野の学科・講座が全国的に増加しています。農業土木学の専門技術と知識を有し、加えて勇気のある人材が社会に輩出されなければ、どうしましょう。振り返れば、「農業土木」「土地改良」という専門用語を口に出すことすらできない頃もありました。お叱りを受けることもありました。

そこで、三重大学では、平成 27(2015)年 4 月の学部入学者から、タイトルにあるような講座名と教育システムを学生募集要項に載せることにしました。しかし、これだけでは実際の農業土木学教育・研究は機能しません。今、東海地域において、一つの試みが動き始めています。「行政(農政局および地方行政)、民間(農業土木系事業団体など)、大学(三重大学および岐阜大学の農業土木学系分野)」の農業土木トライアングルを組織し、この三角形の辺長を短縮して、全体の釣り合いを考えながら三頂点にある構成員個々の個人力を向上させ、少々の時間は掛かるが新たな概念の集団を創り上げたいという構想です。如何お感じでしょうか？

ところで、「忠犬ハチ公」と農業土木学には、とても深い関係があることは、本誌の読者であればご承知のことと思います。最初に、平成 24(2012)年 10 月、三重県津市久居新町(近鉄久居駅前)にて三重県在住の作者の秀逸作としてハチ公とその飼い主の仲むつまじい姿の銅像が披露されました。続いて、2015 年 3 月、東京大学農学部構内にて愛知県在住の作者の渾身作が除幕されたことは記憶に新しくあります。この一連の動きから、飼い主の上野英三郎(うへのひでさぶろう; 1872 年～1925 年)とハチ号(血統書名; 1923 年～1935 年)の物語が相次いで再評価されています。上野博士は、明治政府の耕地整理事業(現 土地改良事業)に関係する農業基盤事業を担い、農業土木技術者の養成や研究・技術・高等教育機関の設置に取り組んでいます。耕地整理法が施行された 1900 年、東京帝国大学農科大学講師に着任し、担当した「農業土木学」の発展・体系化に精力的に取り組み、『土地改良論(1902)』『農用工学教科書(1903)』『農業土木教科書

(1904)』『耕地整理講義(1905)』など、現在の農業土木学の基礎となる教科書を相次いで発刊しています。1911年に教授に任命され、大学の教育・研究・管理運営、農商務省兼任技師として耕地整理事業に取り組み、官学双方で精力的に活躍していました。しかし、初志貫徹できなかったと感ずることがありますが、今から90年前となる1925年に急逝しています(享年54)。

本タイトル「**今、農業農村工学講座に所属し、農業土木学という教育・研究に取り組んでいます**」は、微力な筆者の叫びではありますが、全国農業土木技術者の系譜を継ぐ皆様へ向けて、筋の通った応援の言葉として太文字で命名させていただきます。

<参考資料>

石井 敦(2006)：耕地整理事業から土地改良事業への展開過程－事業内容と類縁用語の検討を中心に－、三重大学生物資源学部学術紀要 33、29-37

石井 敦(2008)：上野英三郎「近代農業土木学の創始者」、県土連 50 年史、三重県土地改良事業団体連合会、250-252

牧 隆泰(1972)：農業土木学の始祖 上野英三郎博士の足跡、農業土木学会誌 40(1)、47-59